

山十郎プラスアクト presents



若き 演奏家たちによる クラシック アンサンブル

5 sat
5/19
15:00 開演
(14:00 開場)
入場無料

会場 古民家山十郎

東京藝術大学音楽学部附属音楽高校
在校生 / 卒業生 有志による弦楽四重奏団

FTON Quartet

ヴァイオリン 及川 悠介
戸澤 采紀
ヴィオラ 永田 董
チェロ 藤森 洸一

定員 100名 (申込制先着順) 4/25(水) より受付開始

※当日受付も可能。ただし立見席でのご鑑賞となる場合があります。
※みなさまに心地よく室内楽をお愉しみいただくために、未就学児の入場はご遠慮下さい。

F.メンデルスゾーン

弦楽四重奏曲 第2番
イ短調 作品13

String Quartet 2
Mendelssohn

B.ブリテン

シンプル・シンフォニー

Simple
Symphony



主催 愛川町教育委員会

後援 / 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校響親会
愛甲商工会・株式会社タウンニュース社
株式会社ジェイコムイースト相模原・大和局
FMHOTS39 (エフエムさがみ)

協力 / 株式会社トヨタレンタリース神奈川
お申込み・お問い合わせ / スポーツ・文化振興課
TEL046-285-2111 (代) SPOBUN@town.aikawa.kanagawa.jp

ごあいさつ

愛川町古民家山十郎へようこそ。

135年前の明治16年、半原の宮大工棟梁として知られる矢内家三兄弟により、豪農熊坂半兵衛の邸宅として建てられたといわれており、「山十（やまじゅう）」と読む邸宅の名は、熊坂家の屋号から取ったものです。

愛川町では、国登録有形文化財でもあるこの山十邸を活用し、若者たちの芸術・文化・交流の場を提供する事業の一環として、2016年から「山十邸プラスアクト事業」を実施しています。昨年は、初の試みとなるクラシック演奏会を行い、町内外から訪れた多くの方々の喜びや感動は記憶に新しいところであります。

今年も東京藝術大学音楽学部附属音楽高校の在校生・卒業生有志4人をお招きし、あの感動を再現できればとの思いからクラシック演奏会を開催します。開演前には、緑萌える木々の芽吹きが鮮やかに色づいた庭園内で、ゆったりとした雰囲気の中、愛川ブランド認定の茶菓を楽しんでいただけます。

4人の若き演奏家たちが奏でる高いレベルの演奏と135年経った今でも、豪壮なたずまいを残す山十邸は、観る者を魅了し、コンサートホールとは違った感動を与えてくれそうです。

彼らにとっても、観客にとっても、そして山十邸にとってもプラスとなるアクトな演奏会になることを期待しています。

2018年5月19日 愛川町教育委員会

演奏者プロフィール

Violin 及川 悠介 Yusuke Oikawa

現在、漆原朝子、野口千代光、木野雅之の各氏に師事
マスタークラス等で
ピエール・アモイヤル、レジス・バスキエ
スヴェトリン・ルセヴらの指導を受ける
第8回横浜国際音楽コンクール中学生の部第1位
第27回日本クラシック音楽コンクール高校生の部第3位
東京藝術大学音楽学部器楽科1年在学中

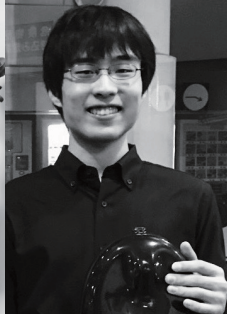


Violin 戸澤 采紀 Saki Tozawa

2001年生まれ。6歳よりヴァイオリンを始める。
第69回全日本学生音楽コンクール バイオリン部門
中学校の部 東京大会第1位、全国大会第1位。
第85回日本音楽コンクールバイオリン部門第1位。
スイス・ティボールヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール
第2位(最高位)。
これまでに、保井頌子、玉井菜穂、ジェラール・プーレの
各氏に師事。
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校3年在学中。

Viola 永田 堇 Sumire Nagata

5歳よりヴァイオリンを学び
舟山千秋、清水厚師、清水高師の各氏に師事
ピアノ・ソルフェージュを近岡直人氏に師事
第13回大阪国際音楽コンクールユース部門第1位
15歳でヴィオラに転向
川崎和憲、大野かおるの各氏に師事
第27回京都フランス音楽アカデミーにて
P.Hグゼレブ教授の公開レッスンに選抜される
東京藝術大学音楽学部器楽科1年在学中



Cello 藤森 洸一 Koichi Fujimori

1999年東京生まれ。
2012年にチェロを始め、2013年より松波恵子氏に師事。
2015年東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校入学、
河野文昭氏に師事。
東京藝術大学音楽学部器楽科1年在学中

演奏楽曲のご紹介

B. ブリテン / シンプル・シンフォニー

E.B.ブリテン(1913-1976)はイングランドに生まれ、幼いころから楽才を発揮した作曲家・ピアニスト指揮者です。9歳になるまでに歌曲・ピアノ曲の他にも弦楽四重奏を完成させる、などかなり早熟であったと言えるでしょう。1930年に彼は王立音楽大学に入学し様々な音楽に触れますが、特にベルクの前衛的な作風に感銘を受けます。そこで彼はベルクに師事しようと考えましたが当時の先生・両親に反対され、あえなく断念。しかし無調・十二音技法などに新たな志向を持ったことが彼の作風を決定づけることになりました。1956年には日本への来日も果たしており、自作の指揮のほか能楽を鑑賞したそうです。63歳で没するまでイギリスを代表するオペラ「ピーター・グラ임ズ」や、オーケストラの入門曲としてプロアマ問わず人気の「青少年のための管弦楽入門」など、100を超える作品を生み出したブリテン。晩年には音楽家として初めて「ロード」の称号も授与されました。彼の作風はエルガーやホルストといった作曲家の「古き良きイギリス」とは少し異なります。断片的にそれらが感じられるところもありますが、前述のようにブリテン自身はベルクに憧れを抱いていました。祖国の色と近代の響きが入り混じった彼の作品は、他のどの作曲家とも一線を画しているのです。今回の曲目「シンプル・シンフォニー」は初期を代表する作品の一つです。10歳前後の頃に習作として書いたピアノ曲を元に1934年に完成されました。全曲を通して機知にあふれており諧謔的な面も感じられます。

- ◆第1楽章 Boisterous Bourrée, Allegro ritmico
(騒々しいブーレ、快速に、リズムカルに)
- ◆第2楽章 Playful Pizzicato, Presto possibile pizzicato sempre
(遊び好きのピチカート、できる限り急速に、つねにピチカートで)
- ◆第3楽章 Sentimental Saraband, Poco lento e pesante
(感傷的なサラバンド、少し遅く、そして重々しく)
- ◆第4楽章 Frolicsome Finale, Prestissimo con fuoco
(浮かれ気分の終曲、極めて急速に、火のように)

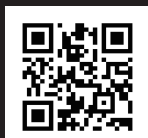
F. メンデルスゾーン / 弦楽四重奏曲第2番

メンデルスゾーンはドイツロマン派を代表する作曲家であり、ピアニスト、オルガニストでもある。今回演奏する弦楽四重奏曲第2番は、彼が若年18歳の時に書いたものだが、その時すでに、彼は有名な弦楽八重奏曲やピアノ四重奏曲などを完成させており、室内楽の分野では熟していたと言える。弦楽四重奏曲第2番全体を通し用いられる動機は、メンデルスゾーンが数ヶ月前に作曲した歌曲「本当に? (Ist es wahr?)」から引用されたものだ。

- ◆第1楽章 Adagio-Allegro vivace
序奏とソナタ形式で書かれた部分から成る。序奏では暖かみのあるハーモニーの移り変わりが美しく、どこか懐かしい感じがする。序奏部最後には、前述のIst es wahr?のメロディーが現れる。ヴァイオリンのトリルから曲風ガラッと変わり、荒々しい掛け合いの後、テーマが現れる。短調の何かを訴えかけるような旋律が温度や熱量を変化させながら展開していく。激しさが増したコーダを経てフォルティッシモで終わる。
- ◆第2楽章 Adagio non lento
調性は違うが、1楽章冒頭のような雰囲気から始める。cantabileの表記のとおり、まるで歌のような旋律と下3声の重なりがとても美しい。突然フーガの主題が現れ、各パートに横の繋がりが聴こえてくる。その後テンポが上がり、激しく荒々しく展開する。旋律に半音階的上向が見られることが多く、感情の高ぶりが現れている。盛り上がりを見せた後、ふたたび、はじめの雰囲気に戻り、緩やかに終結する。
- ◆第3楽章 Intermezzo
Intermezzoは間奏曲という意味。ピチカートの伴奏の上に聴こえるメロディーは、単純な和声展開なもの、弦楽器特有の緩やかなスイングが素敵な旋律だ。テンポが上がり、スクワートで奏される音符たちがころころと展開していく。その後またはじめと同じテーマに戻り、中間部の雰囲気も混ぜつつ終結する。
- ◆第4楽章 Presto
まず序奏が強烈なトレモロにより始まり、フォルティッシモでカデンツァ風な旋律が泳ぎ出す。劇的でカデンツァ風の旋律だ。序奏の後、動きを持ったテーマが現れる。展開のスピードが速く、いろんな表情が現れる。その後2楽章のフーガのテーマを挟んで1楽章のAdagioが現れ、緩やかに終わる。

古民家山十郎へのアクセス

- お車で越越しの場合 - 右記Pトヨタレンタリース神奈川専用駐車場より徒歩5分
 - 圏央相模原愛川ICから愛川方面に進み、国道129号を経て内陸工業団地方面へ(約20分)
 - 圏央厚木ICから相模原方面に進み、国道129号から山際交差点を県道65号へ左折(約20分)
- バスをご利用の場合 - バス停「局前」下車徒歩5分
 - 本厚木駅北口1番「愛川バスセンター」行
 - または厚木バスセンター10番「上三増」行(約35分)
 - 海老名駅西口2番「桜台経由愛川バスセンター」行(約45分)



古民家山十郎周辺地図

